

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7番50号
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人も含めて皆さんが穏やかに、落ち着いてのんびりと暮らせる施設作り心掛けています。利用者の残存能力を活かし、自立支援に向けた介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者ケアを総合的に行っている法人が運営しているホームで、併設している小規模多機能型の事業所や市から委託を受けて実施している配食サービス等と連携しながら、利用者へサービスを提供している。また、運営法人の関係機関である病院が内科や外科だけでなく呼吸器科や循環器科、眼科等もあることから、利用者の医療面での安心感が高い。幹線道路から少し入った高台にあるため民家等が少なく、管理者は地域に出かけ利用者地域とのパイプ役を担っている。どの居室からの眺めも良く、爽やかな風が通り抜け心地のよい環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏名 施設長 黒瀬 俊三

評価完了日 23年 7月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ふつうのことをふつうに」の基本理念を事業所内に掲示し、毎日意識付けを行っている。	
			(外部評価) 「ふつうのことをふつうに」という理念を掲げ、ふつうに生活してもらうために利用者のこれまでの生活を理解し、継続できるよう努めている。また、ふつうの生活を送るために地域との関係性を意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深められるよう努めている。地域の方にボランティアをお願いしている。	
			(外部評価) ホームは大きな幹線道路から少し入った高台にあり、気軽に近所づきあいができないため、管理者が積極的に地域に出かけ、利用者と地域住民が交流できるきっかけづくりに力を入れている。小中学生の訪問や、公民館活動への参加などを行い地域とつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員さんや地域の方たちと協力し、認知症の理解に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的開催し、現在の運営状況や情報収集に努め、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、併設している小規模多機能型の事業所と時間を変えてホーム単独で行っている。出席者は、市担当者、地域住民、利用者家族と少人数ではあるが、ホーム運営の報告や、利用者の生活状況の説明等を行っている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加することで、利用者の状態や生活状況の把握等も円滑にできることが考えられるため、出席してもらえよう働きかけるよう望みたい。また、他の関係機関の参加を促し、利用者のサービス向上に繋がるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村や包括支援センター、在支の職員と協力し、連携を取りながらサービスに活かしている。	
			(外部評価) 管理者は福祉関係の業務でキャリアもあり、ホームと小規模多機能の事業所を兼任しており、市担当者とは双方の運営相談や利用者の状況報告など、日常的に話し合う機会がある。	ホームや小規模多機能型の事業所が多い地域であるため、市担当者と話し合う時間も限られることも予想される。直接の担当者だけでなく他の行政関係機関との連携も密にすることにより、利用者のサービスが向上するよう、ホームと行政機関の連携の在り方について検討する機会をもつよう期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 重度の認知症の方のために、安全面を優先し、玄関や入り口の施錠はやむを得ずしている。職員は拘束について話し合いを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束について理解はしているが、道路へのアプローチが長い急な坂のため事故防止や安全を優先させ、玄関への施錠はやむを得ず行っている。入居時に利用者や家族に説明をして理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の様子をしっかり見て、異変が無いかどうかチェックしている。ミーティング時に虐待の防止について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において話し合いの場を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やその御家族さんに説明をし、理解をもらった上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の様子を電話や訪問された時に報告や説明をし、要望や意見を反映させている。 (外部評価) 基本的には管理者が家族等との話し合いを行い、不在の場合はユニットリーダーが行うようになっている。また、利用者の担当職員が家族等に生活状況を伝える際にも、意見や要望の有無を確認し、管理者に報告するようになっている。出された意見は会議で検討し、その結果を家族等に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のミーティングを行ない、職員の意見や提案を聞き、良い事は取り入れている。変更は申し送りノートに書き、実践している。 (外部評価) ユニットリーダーが積極的に声をかけ、職員の意見を聞き入れる取り組みをしている。大きな組織であるためリーダーから管理者、管理者から法人代表者へ報告され、意見がホーム運営に繋がるまでには時間を要するが、「報・連・相」を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一生懸命努力している者には、やりがいがもてる様、支援をして行きたいと思っている。希望の休みなども取り入れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1回は法人内で研修を行ない、施設外研修を受ける時は有休として安心して研修が受けれる様、配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 夏祭りを通じて交流したり、勉強会に参加したりしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時は気を配り、ご本人の要望を良く聞いて、信頼関係を構築している。認知症の心理的状況を積極的傾聴により把握し、どのように対応すれば良いか検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談でご要望を良く聞き、困っている事や心配事の内容を良くお聞ききして相談に乗っている。始めは出来るだけ多く連絡を取るようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご要望を良く聞き、ニーズを把握した上で必要な支援を見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である高齢者の方を尊重し、生活を共にする事を基本理念に掲げて、役割分担を考え、協働生活を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃からご家族の方に連絡を取り、協力出来る様、努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の方や友人、知人の面会を歓迎し、ご家族の協力が得られる様、努めている。毎月新聞の発行、報告にてお伝えしている。 (外部評価) 島しょ部や山間部からの利用者も多いことから、利用以前の居住地を訪ねることは少ないが、利用者の友人や知人の訪問があった際には、気軽に訪ねて貰えるよう「ちかみシーサイド新聞」を渡す等、日々の生活を紹介し今までの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや行事への積極的な参加を促し、席の配慮など環境設定も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後もご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族より生活歴や暮らしの希望をお伺いし、要望や意向の把握に努めている。 (外部評価) ホームでは、利用者の今を大切にするためには、これまでの生活歴を知る必要性を実感しており、生活歴の聞き取りには力を入れている。また、職員間で共有することでケアの質向上に繋げようと引継書に記載したり、ミーティングなどで話し合いが行われている。	利用者の生活歴等の情報の共有は口頭で行われることが多いために、職員間の把握状況の確認が難しい。職員の入れ替わりもあり職員間の情報量の差が生じていると思われるため、介護記録とは別の様式にまとめる等の工夫をし、利用者の理解をさらに深めるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面談で生活歴をお伺いし、日々の会話の中で情報収集し、活かせるよう頑張っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックやご本人との会話、ご家族との相談により、生活リズムや体調の変化に配慮して、御本人らしい暮らしが出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当者会や職員同士でのケアカンファレンスを月に1回は必ず行なう様にし、希望や要望、質の向上を目指している。</p> <p>(外部評価) 介護計画はモニタリングを元に評価し、見直しを行っている。モニタリングはユニットリーダーや担当職員から管理者が聞き取り、評価を行っている。新人職員には、管理者がモニタリングや介護計画のポイント等直接指導しており、介護計画の質の向上に努めている。</p>	介護記録は介護計画を意識した記載方法が望まれる。それにより職員間で介護目標を絶えず意識することになる。また、介護目標を数値化する等、利用者や職員が達成感を感じることが出来る工夫をすることで、日常生活に張りができることも考えられるので、一層の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケア日誌や申し送りノートに気づいた事を細かく記入し、見直しの情報を共有している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 新たなニーズに対応出来るように、また困難な利用者にも支援が出来る様に頑張っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深め公民館や婦人会、民生委員さんとも協力して頑張っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月1回は定期受診を行ない、また体調不良時はその都 度病院受診し、結果を家族に報告し密な連絡に努めて いる。</p> <p>(外部評価) 母体法人の関係機関である病院に循環器科や呼吸器 科、眼科等の専門科目もあり、その安心から利用者 のかかりつけ医となっている。また、より専門的な治療 や緊急性の高い場合は、かかりつけ医から専門機関へ の連絡調整が行われており、利用者や家族からの信頼 は高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員同士が情報交換し、介護職員にも指導してい る。病状の変化や異変に気付くよう指導している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院の看護師や相談員とも連絡を密に取り合い、状態 の変化や情報の把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族の要望を良く聞き、事業所で対応出来る事は出 来る限り行い、病院の先生からも病状の説明をして支 援を行っている。</p> <p>(外部評価) 関係機関である総合病院との連携が深いことから、医 療的ケアは病院が主として行うことを基本としてい る。利用者や家族等にも入居時に丁寧に説明してお り、理解を得ている。また、家族等とは医療行為が必 要なく、食べることができれば、ホームでの生活を支 援するよう話し合われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングや勉強会において応急手当の方法や誤嚥の対応を勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練や避難訓練等を定期的に行なっており、地域の民生委員さんや近くの方にも協力してもらっている。 (外部評価) 併設している小規模多機能型の事業所を利用する利用者の安全も保障することが管理者には求められており、職員全員で災害対策に力を入れている。定期的な避難訓練だけでなく、運営推進会議でも議題として取り上げ、地域住民との協力関係の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴にて対応している。言葉掛けにも充分注意し、プライバシーを守っている。 (外部評価) 利用者への声かけは、職員の個性を活かしその職員らしきが出されており、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。利用者も職員からの声かけを心地よく感じている様子で、お互いの信頼関係の中でケアが提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が全てを決めてしまうのではなく、利用者にも決定してもらい、不安や心配事については、良く聞き対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などを行ない、散歩やレク、お昼寝などは各個人に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴後の衣服の選択や要望があればエステ、化粧、理容を提供している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に盛り付けをしたり、一緒に食事をしている。協働作業にて役割分担もしてもらっている。 (外部評価) 市委託の配食サービスや小規模多機能型の事業所の利用者の食事を一括して、専門の部門が調理している。そのため、栄養バランスや摂取カロリー等に配慮して作られている。職員が調理にかからないため、盛付や配膳を利用者との協働で行い、ゆったりとした楽しい食事時間が過ごせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) それぞれの食欲に合わせて用意している。ケアチェック表に記入し、足りない事が無いように充分把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後職員が付いて口腔ケアを行ない、清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 今までの排泄パターンを見て考え、排泄の多い時間にトイレ誘導をしている。早めに誘導し失敗が少しでも少なくなる様に注意している。	
			(外部評価) 職員2人で介助してでもトイレで排泄してもらいたいと、排泄の自立支援に取り組んでいる。夜間は安眠と排泄支援とを両立させるよう状況に応じて対応している。生活全般を視野に入れた排泄ケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を使用している方が多く、それでも出ない時は浣腸をしている。あまり予防に取り組めていない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 昼からの入浴を希望される利用者は昼から入浴して頂く。皆が均等に入れる様に努めている。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の状況に応じて対応をしている。入浴を好まない利用者に対しては、対応する職員を代えたり、タイミングを工夫して声かけする等しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 使い慣れた枕や布団を持って来て頂いている利用者もいる。体調や身体機能に合わせて好きな時に横になれる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を誰でも見れる所に置き、すぐに確認出来るようにしている。また確実に飲み込むまでの見守りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔の話や経験、趣味を話してもらい、レクやお誕生日に活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は一日に1回は、散歩を兼ねて外を歩くようにしている。遠い所はドライブや買物の外出をしている。 (外部評価) 玄関を施錠しているため利用者が自由に庭に出る事はできないが、職員が頻繁に付き添って玄関先のベンチや裏庭の家庭菜園等で外気浴をしている。20分程度で海に出ることができる散歩道もあり、職員と一緒によく行っている。車いす対応の車両もありドライブにもよく出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 週に1回はパンを買ったり、買物に出かけたりして自分の好きな物を買ったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族さんに伝えて欲しい希望があれば職員が代行しご本人に代わってお話出来る様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が感じられる様に季節の花で飾ったり、利用者さんの作品を貼ったりして楽しんでもらっている。衛生管理に努めている。	
			(外部評価) 共用空間は、ホームの中央にありダイニングテーブルやソファがゆったりと並べられている。車いすの利用者が移動しやすいようにテーブル間もゆとりがあり、居心地がよい。広い壁面が殺風景にならないよう写真やイラストが飾られており、季節を感じる飾りつけなどが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個別に休める部屋があり、好きな時に使用できる。席は話の合う人の配置にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族さんと相談して御本人の好みに合う物を持ってきてもらっている。	
			(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。ホームで用意しているベッド等も部屋ごとに配置が異なっており、利用者の使い勝手を検討していることが分かる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺りやリハビリが出来るように作られている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200078
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	ちかみシーサイド
所在地	愛媛県今治市近見町1丁目7番50号
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人も含めて皆さんが穏やかに、落ち着いてのんびりと暮らせる施設作り心掛けています。利用者の残存能力を活かし、自立支援に向けた介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者ケアを総合的に行っている法人が運営しているホームで、併設している小規模多機能型の事業所や市から委託を受けて実施している配食サービス等と連携しながら、利用者へサービスを提供している。また、運営法人の関係機関である病院が内科や外科だけでなく呼吸器科や循環器科、眼科等もあることから、利用者の医療面での安心感が高い。幹線道路から少し入った高台にあるため民家等が少なく、管理者は地域に出かけ利用者や地域とのパイプ役を担っている。どの居室からの眺めも良く、爽やかな風が通り抜け心地のよい環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ちかみシーサイド

(ユニット名) ひだまり

記入者(管理者)

氏名 施設長 黒瀬 俊三

評価完了日 23年 7月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ふつうのことをふつうに」の基本理念を事業所内に掲示し、毎日意識付けを行っている。	
			(外部評価) 「ふつうのことをふつうに」という理念を掲げ、ふつうに生活してもらうために利用者のこれまでの生活を理解し、継続できるよう努めている。また、ふつうの生活を送るために地域との関係性を意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深められるよう努めている。地域の方にボランティアをお願いしている。	
			(外部評価) ホームは大きな幹線道路から少し入った高台にあり、気軽に近所づきあいができないため、管理者が積極的に地域に出かけ、利用者と地域住民が交流できるきっかけづくりに力を入れている。小中学生の訪問や、公民館活動への参加などを行い地域とつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員さんや地域の方たちと協力し、認知症の理解に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的を開催し、現在の運営状況や情報収集に努め、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、併設している小規模多機能型の事業所と時間を変えてホーム単独で行っている。出席者は、市担当者、地域住民、利用者家族と少人数ではあるが、ホーム運営の報告や、利用者の生活状況の説明等を行っている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加することで、利用者の状態や生活状況の把握等も円滑にできることが考えられるため、出席してもらえるよう働きかけるよう望みたい。また、他の関係機関の参加を促し、利用者のサービス向上に繋がるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村や包括支援センター、在支の職員と協力し、連携を取りながらサービスに活かしている。	
			(外部評価) 管理者は福祉関係の業務でキャリアもあり、ホームと小規模多機能の事業所を兼任しており、市担当者とは双方の運営相談や利用者の状況報告など、日常的に話し合う機会がある。	ホームや小規模多機能型の事業所が多い地域であるため、市担当者と話し合う時間も限られることも予想される。直接の担当者だけでなく他の行政関係機関との連携も密にすることにより、利用者のサービスが向上するよう、ホームと行政機関の連携の在り方について検討する機会をもつよう期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 重度の認知症の方のために、安全面を優先し、玄関や入り口の施錠はやむを得ずしている。職員は拘束について話し合いを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束について理解はしているが、道路へのアプローチが長い急な坂のため事故防止や安全を優先させ、玄関への施錠はやむを得ず行っている。入居時に利用者や家族に説明をして理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の様子をしっかり見て、異変が無いかどうかチェックしている。ミーティング時に虐待の防止について話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングや勉強会において話し合いの場を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者やその御家族さんに説明をし、理解をもらった上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の様子を電話や訪問された時に報告や説明をし、要望や意見を反映させている。 (外部評価) 基本的には管理者が家族等との話し合いを行い、不在の場合はユニットリーダーが行うようになっている。また、利用者の担当職員が家族等に生活状況を伝える際にも、意見や要望の有無を確認し、管理者に報告するようになっている。出された意見は会議で検討し、その結果を家族等に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回のミーティングを行ない、職員の意見や提案を聞き、良い事は取り入れている。変更は申し送りノートに書き、実践している。</p> <p>(外部評価) ユニットリーダーが積極的に声をかけ、職員の意見を聞き入れる取り組みをしている。大きな組織であるためリーダーから管理者、管理者から法人代表者へ報告され、意見がホーム運営に繋がるまでには時間を要するが、「報・連・相」を大事にしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 一生懸命努力している者には、やりがいがもてる様、支援をして行きたいと思っている。希望の休みなども取り入れている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 月に1回は法人内で研修を行ない、施設外研修を受ける時は有休として安心して研修が受けれる様、配慮している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 夏祭りを通じて交流したり、勉強会に参加したりしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用開始時は気を配り、ご本人の要望を良く聞いて、信頼関係を構築している。認知症の心理的状況を積極的傾聴により把握し、どのように対応すれば良いか検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談でご要望を良く聞き、困っている事や心配事の内容を良くお聞ききして相談に乗っている。始めは出来るだけ多く連絡を取るようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご要望を良く聞き、ニーズを把握した上で必要な支援を見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である高齢者の方を尊重し、生活を共にする事を基本理念に掲げて、役割分担を考え、協働生活を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃からご家族の方に連絡を取り、協力出来る様、努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の方や友人、知人の面会を歓迎し、ご家族の協力が得られる様、努めている。毎月新聞の発行、報告にてお伝えしている。 (外部評価) 島しょ部や山間部からの利用者も多いことから、利用以前の居住地を訪ねることは少ないが、利用者の友人や知人の訪問があった際には、気軽に訪ねて貰えるよう「ちかみシーサイド新聞」を渡す等、日々の生活を紹介し今までの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや行事への積極的な参加を促し、席の配慮など環境設定も考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後もご家族からの相談や連絡があれば常に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族より生活歴や暮らしの希望をお伺いし、要望や意向の把握に努めている。 (外部評価) ホームでは、利用者の今を大切にするためには、これまでの生活歴を知る必要性を実感しており、生活歴の聞き取りには力を入れている。また、職員間で共有することでケアの質向上に繋げようと引継書に記載したり、ミーティングなどで話し合いが行われている。	利用者の生活歴等の情報の共有は口頭で行われることが多いために、職員間の把握状況の確認が難しい。職員の入れ替わりもあり職員間の情報量の差が生じていると思われるため、介護記録とは別の様式にまとめる等の工夫をし、利用者の理解をさらに深めるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面談で生活歴をお伺いし、日々の会話の中で情報収集し、活かせるよう頑張っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックやご本人との会話、ご家族との相談により、生活リズムや体調の変化に配慮して、御本人らしい暮らしが出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当者会や職員同士でのケアカンファレンスを月に1回は必ず行なう様にし、希望や要望、質の向上を目指している。</p> <p>(外部評価) 介護計画はモニタリングを元に評価し、見直しを行っている。モニタリングはユニットリーダーや担当職員から管理者が聞き取り、評価を行っている。新人職員には、管理者がモニタリングや介護計画のポイント等直接指導しており、介護計画の質の向上に努めている。</p>	介護記録は介護計画を意識した記載方法が望まれる。それにより職員間で介護目標を絶えず意識することになる。また、介護目標を数値化する等、利用者や職員が達成感を感じることが出来る工夫をすることで、日常生活に張りができることも考えられるので、一層の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケア日誌や申し送りノートに気づいた事を細かく記入し、見直しの情報を共有している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 新たなニーズに対応出来るように、また困難な利用者にも支援が出来る様に頑張っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域行事への参加や施設行事への招待などを通し、地域との交流を深め公民館や婦人会、民生委員さんとも協力して頑張っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月1回は定期受診を行ない、また体調不良時はその都 度病院受診し、結果を家族に報告し密な連絡に努めて いる。</p> <p>(外部評価) 母体法人の関係機関である病院に循環器科や呼吸器 科、眼科等の専門科目もあり、その安心から利用者 のかかりつけ医となっている。また、より専門的な治療 や緊急性の高い場合は、かかりつけ医から専門機関へ の連絡調整が行われており、利用者や家族からの信頼 は高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員同士が情報交換し、介護職員にも指導してい る。病状の変化や異変に気付くよう指導している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院の看護師や相談員とも連絡を密に取り合い、状態 の変化や情報の把握に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族の要望を良く聞き、事業所で対応出来る事は出 来る限り行い、病院の先生からも病状の説明をして支 援を行っている。</p> <p>(外部評価) 関係機関である総合病院との連携が深いことから、医 療的ケアは病院が主として行うことを基本としてい る。利用者や家族等にも入居時に丁寧に説明してお り、理解を得ている。また、家族等とは医療行為が必 要なく、食べることができれば、ホームでの生活を支 援するよう話し合われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングや勉強会において応急手当の方法や誤嚥の対応を勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練や避難訓練等を定期的に行なっており、地域の民生委員さんや近くの方にも協力してもらっている。 (外部評価) 併設している小規模多機能型の事業所を利用する利用者の安全も保障することが管理者には求められており、職員全員で災害対策に力を入れている。定期的な避難訓練だけでなく、運営推進会議でも議題として取り上げ、地域住民との協力関係の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室はすべて個室であり、入浴も個人浴にて対応している。言葉掛けにも充分注意し、プライバシーを守っている。 (外部評価) 利用者への声かけは、職員の個性を活かしその職員らしさが出されており、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。利用者も職員からの声かけを心地よく感じている様子で、お互いの信頼関係の中でケアが提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が全てを決めてしまうのではなく、利用者にも決定してもらい、不安や心配事については、良く聞き対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 口腔ケアやラジオ体操、嚥下体操などを行ない、散歩やレク、お昼寝などは各個人に合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴後の衣服の選択や要望があればエステ、化粧、理容を提供している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に盛り付けをしたり、一緒に食事をしている。協働作業にて役割分担もしてもらっている。 (外部評価) 市委託の配食サービスや小規模多機能型の事業所の利用者の食事を一括して、専門の部門が調理している。そのため、栄養バランスや摂取カロリー等に配慮して作られている。職員が調理にかからないため、盛付や配膳を利用者との協働で行い、ゆったりとした楽しい食事時間が過ごせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) それぞれの食欲に合わせて用意している。ケアチェック表に記入し、足りない事が無いように充分把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後職員が付いて口腔ケアを行ない、清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 今までの排泄パターンを見て考え、排泄の多い時間にトイレ誘導をしている。早めに誘導し失敗が少しでも少なくなる様に注意している。	
			(外部評価) 職員2人で介助してでもトイレで排泄してもらいたいと、排泄の自立支援に取り組んでいる。夜間は安眠と排泄支援とを両立させるよう状況に応じて対応している。生活全般を視野に入れた排泄ケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を使用している方が多く、それでも出ない時は浣腸をしている。あまり予防に取り組めていない。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 昼からの入浴を希望される利用者は昼から入浴して頂く。皆が均等に入れる様に努めている。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の状況に応じて対応をしている。入浴を好まない利用者に対しては、対応する職員を代えたり、タイミングを工夫して声かけする等しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 使い慣れた枕や布団を持って来て頂いている利用者もいる。体調や身体機能に合わせて好きな時に横になれる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を誰でも見れる所に置き、すぐに確認出来るようにしている。また確実に飲み込むまでの見守りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔の話や経験、趣味を話してもらい、レクやお誕生日に活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は一日に1回は、散歩を兼ねて外を歩くようにしている。遠い所はドライブや買物の外出をしている。	
			(外部評価) 玄関を施錠しているため利用者が自由に庭に出る事はできないが、職員が頻繁に付き添って玄関先のベンチや裏庭の家庭菜園等で外気浴をしている。20分程度で海に出ることができる散歩道もあり、職員と一緒によく行っている。車いす対応の車両もありドライブにもよく出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 週に1回はパンを買ったり、買物に出かけたりして自分の好きな物を買ったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族さんに伝えて欲しい希望があれば職員が代行しご本人に代わってお話出来る様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が感じられる様に季節の花で飾ったり、利用者さんの作品を貼ったりして楽しんでもらっている。衛生管理に努めている。	
			(外部評価) 共用空間は、ホームの中央にありダイニングテーブルやソファがゆったりと並べられている。車いすの利用者が移動しやすいようにテーブル間もゆとりがあり、居心地がよい。広い壁面が殺風景にならないよう写真やイラストが飾られており、季節を感じる飾りつけなどが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個別に休める部屋があり、好きな時に使用できる。席は話の合う人の配置にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族さんと相談して御本人の好みに合う物を持ってきてもらっている。	
			(外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。ホームで用意しているベッド等も部屋ごとに配置が異なっており、利用者の使い勝手を検討していることが分かる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手摺りやリハビリが出来るように作られている。	